

開成の杜

第79号 ●2009年6月1日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所/学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人/学園長 関口富左



花(はる)爛漫 友との語らい

(撮影 山口郁生)

私はここ開成の地に、六、七十年も暮らしているが、神社の杜、公園の緑の広がり等、清浄な雰囲気包まれて、在り難いと思いで暮らしている。我家の門を一步出ると公園、しかもそこには子供の遊び場に種々の遊具が備わった広場。安全にして心豊かな情景を楽しむことが出来て、爽快である。ブランコのゆれるさま。考慮されたスベリ台。動物に似せた遊具のさまさま。幼い子供のスベリ台を求める様子、ブランコを得意になってぐさま。

目覚めて、朝の好天の時、しよば降る雨の時。人はその日の天候に左右されて、思いも異なる。それは、当然のことと我が身を思う。

五月は殊の外、人の心を爽快にする。その日の仕事にも影響をもつ程である。晴れやかな自然の安らぎは、そこはかとない安泰とも、快適とも

五月は殊の外、人の心を爽快にする。その日の仕事にも影響をもつ程である。晴れやかな自然の安らぎは、そこはかとない安泰とも、快適とも

五月は殊の外、人の心を爽快にする。その日の仕事にも影響をもつ程である。晴れやかな自然の安らぎは、そこはかとない安泰とも、快適とも

五月は殊の外、人の心を爽快にする。その日の仕事にも影響をもつ程である。晴れやかな自然の安らぎは、そこはかとない安泰とも、快適とも

五月は殊の外、人の心を爽快にする。その日の仕事にも影響をもつ程である。晴れやかな自然の安らぎは、そこはかとない安泰とも、快適とも



学園長 関口富左

善きかな!!

そばで見ている親の安心した様子。まさに平安そのものとして美しい。私は暇のある時、その場の木の椅子に腰を下ろして、暫く楽しむ。

人の子の育つさまの安泰さは、正に美そのものである。親の満足そうなのさま。そこに見る真の調和とでも言うべき様相を見ることができ、いつも見ても美しい!!

学園を創りたい!! との思いも、多分この地に住んで、自ら生じた唯一の誘いであるように思われる。自然を凝視して師としよう。これもここに住みついて、日々の、また季節から受ける天の恵みでも言うべきか、安穩な、静寂な雰囲気を受けることにおいて、自ら生じてきた思いとも言えよう。

学園の四季、春の桜、夏の陽射し、秋の紅葉、冬の静けさ。この地に「学園を」と思い見た時は、さの見知ることもなく、杜の後ろの静けさに心ひかれてのことであつたが、これらの雰囲気から自ら生じている現在の地に求められたことを、改めて安堵と感謝をしている。

創立六十三周年を祝う 尊敬・責任・自由の式典歌が高らかに響く

学園は創立六十三周年を迎えた。四月二十二日、厳かに記念式典が行われた。午前部は高校生、午後の部は大学、短大生、それに教職員併せて二千名が臨んだ。

大学の部での関口富左衛門校長講話では、女子の高等教育の普及と向上を目指して昭和二十二年開学した本学園の六十三年の歩みを振り返り、積み重ねた歴史は先輩諸姉が築いたものと述べた。

そして「今、大学教育を受けていることを自分の中でどのように捉えるかが課題。自己に備えた持てる力を未来に向かって前進できるように精一杯努力しなさい。健康で友情を大切に自分の心の中で、美しい私」とはなにかを自問しなさい」と自己と他との関係を学び取るよう諭した。



講話する関口富左衛門校長

「美しい私」とはなにかを自問しなさい」と自己と他との関係を学び取るよう諭した。

開成成務一物を開きつて務めを成す

続いて関口修理理事長が挨拶した。「今、学園のある地区は先人が安積原野を開拓した地であり、『易経』の言葉『開物成務』を引用して開成と名付けられた地である。そこに礎を定めた本学園が六十三年の歴史を刻めることができたのは、多くの人々、社会のご協力があつたからこそである。そこに集う我々は建学の精神である『尊敬・責任・自由』を基に、学び得た知識を磨いて、社会の発展に寄与すべく、自己を発揮してほしい」と述べた。

教職員と学生の絆を深めた大合唱

式典は後半、全教職員が登場し、開成学園オーケストラの演奏に乗せて「吾子よ健やかに 晴れやかに」と若者賛歌「吾子よ」を歌い上げた。これに対し応答歌「青春の確かさ」を、今を学生側が歌い、最後は教師と学生が声を合わせての大合唱となった。

永年勤続者を表彰

式典では永年勤続者の表彰があり、満三十年から十年勤続の十二名に関口富左衛門校長から表彰状と金一封が贈られた。

表彰者を代表して短大の深谷登喜子准教授が「学長先生のご指導を賜わり、良き諸先輩、良き同僚そして良き学生に恵まれてこまです。勤務することができた。本日の表彰は人生の宝物となった。これを励みにさらに学務に専念する覚悟」と精進を誓った。

表彰者は次の通り(敬称略)。

〔勤続三十年〕▲短大/深谷登喜子

▲事務局長/齊川博治

〔勤続二十年〕▲短大/早川 仁

▲高校/皆川智彦

▲事務局長/熊田敦也・辻 和宏

〔勤続十年〕▲大学/金子依里佳

▲高校/ポール・バーナミ

▲家庭寮/安田典子

▲事務局/宮本 仁

▲青柳益司・村田業織



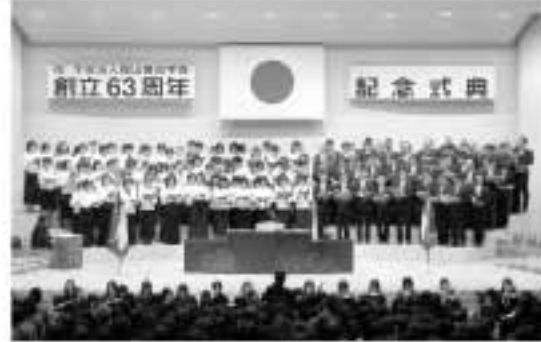
表彰者(高校)



表彰者(大学・事務局)

附属幼稚園でも式典

附属幼稚園では二十一日、講堂に二百名の園児が集い、学園創立六十三周年を祝った。関口園長は「皆に誕生日があるように学園にも誕生日があり、今年六十三歳となりました」と挨拶した。そして、よくみる よくきく よくかんがえて、を取り入れた「むすんで ひらいて」を合唱した。



教職員が贈った、吾子よを合唱して学生、生徒を励ます

創立六十三周年記念 平成二十年度第一回教養講座 女の道は一本道

―篤姫の生き方―

講師 脚本家 田淵久美子氏



田淵久美子氏

学園創立六十三周年記念教養講座は四月二十二日開催された。講師はNHK大河ドラマ「篤姫」の脚本を書いた脚本家田淵久美子氏。劇中で描いた篤姫の生き方、あるがままに生きる。をテーマに自分を磨くための生き方を述べ、美しい私」を創ってくださいますとエールを送った。以下その要旨。

人はみんな生まれてきた役割を持っていて、自分を見つめることで役割がわかる。そのために必要なのは、あるがまま、だと思おう。自分を見つめるには、自分を褒めること。毎日毎日鏡に向かっても一人のあなたに「可愛いよ。可愛いよ」と褒めまくること。これにより、「プス」「勉強しなさい」と普段からいじめられている鏡の中のあなたが、あなたに心を開いてくれる。対話の中で、あるがままの自分が見えてくるでしょう。そして自分が本当にやりたいこと、生きたい道を、直感で見つけましょう。そして自分を愛し、周りの人たちに對する思いやりを忘れない。人生は一回だけ。どのように一生懸命生きたかが問われる。私たちの命は人が、自然が、健康が守っていることを忘れてはいけない。「あきらめず、投げ出すな」生きていることが大事なのだ」と述べた。

ず、自分を信じて前に出なさい。失敗や苦勞を乗り越えてきたからこの世はパラダイスです。全部自分の榮幸にしてしまおうくらいの大膽さ、おどろかしを持つ努力をしない。すると、自信が湧いてきます。反省する気持ちも出せましょう。これからの人生で良いことがたくさんあることを体験してください。それには「尊敬・責任・自由」の精神を忘れずに。

今日、学園に来て廊下の鏡に「美しい私を創る」という標語を見ました。素晴らしい言葉です。美しいということは綺麗とは違う。魅力ある女性になることです。自分という器に何を入れば魅力的になれるか。プロデューサーはあなた自身です。

平成二十年度第三回教養講座 講 師 田淵久美子氏 講 題 篤姫の生き方

田淵氏は医師としてのエピソードやチェルノブイリ、イランでの治療を通じて命と向き合う人々との体験談を披露しながら、命の尊さを説いた。

この中で田淵氏は「命は①人と人②人と自然③体と心の三つの繋がりで守られている」と述べている。人間には温かさがある。相手を理解する、許してあげるといふ心がある。回りの人たちに温かく接すること、社会で連鎖を生み、人と人との関係を保っている。人は自然に守られているのに自然を壊し続けて

昨年十一月二十七日に開催した平成二十年度第三回教養講座は医師で作家の田淵久美子氏をお迎えした。大学の部では「命は三つのつながりで守られている」、高校の部では「生きていくってすばらしい」と題して講演した。

したものとすることが狙い。大学で百十五名、短大で三百三十九名が三連に分かれて参加した。研修は開成式典のあとDVDによる学内紹介で各学科の教育内容を全員で理解したあと、各学科に分かれてより具体的に講義内容や単位修得等の説明を受けた。

新緑の裏磐梯で大自然を満喫した学生は、教師との対話を通してこれから始まる学業へ気持ちを高めたい。

裏磐梯で大自然を満喫した学生は、教師との対話を通してこれから始まる学業へ気持ちを高めたい。



五仙沼の大自然/バックに全員集合(左は教育学科)

子育て支援で郡山市と協定結ぶ

短大・幼児教育学科生を常時派遣

本学と郡山市は四月から開始した「郡山市こども総合支援センター」の運営に連携し、子育て支援する協定を結んだ。

通称「ニコニコこども館」は子



郡山市・郡山女子大学
郡山市こども総合支援センター「ニコニコこども館」開館式で協定結ぶ
(写真提供: 郡山市・郡山女子大学)

どもに関する家庭相談や遊戯室、保育室や健康指導室などを備えた施設。そこへ本短大・幼児教育学科の学生を常時二・三名派遣して乳幼児健診の手伝い、遊戯室での見守り、本の読み聞かせ等で運営に協力する。幼稚園教諭や保育士を目指す学生にとっては体験学習の場ともなる。ケースにより教授陣の派遣もありうる。

三月十三日、調印に臨んだ本学園長は「本学にとっても学生が日常の親子関係を学べる貴重な場であり、リポートを提出させることで単位に織り込むことも考慮したい。また、地域の活性化、人材育成にもつながる連携で有意義である」と語った。

特集 研修紀行

大学・短期大学部

大学と短大は、今年も、海外に、国内に、各学科の特徴を生かした研修旅行を実施した。見聞を広めたことにより、今後の学習に大いに役立つことであろう。

美しい街並み 竹む旅人

人間生活学科四年 芝田 真理

二月二十二日から四泊六日でパリを訪ねました。幼い頃からずっとメディアを通して見るだけだった憧れの地は、やはり長い歴史を生きた街並みが深い趣を放っていました。景観を鑑賞するための規則があるというのでクラシカルな建物ばかりが並ぶ光景を思い描いていましたが、意外にも近代建築が街のあちこちに見られました。なるほど、あのル・コルビュジェが活躍した地でありました。

視察先の老人福祉施設「アルエ

イタリアの食文化

食生活学科二年 大川 樹理



セーヌ川に沿って近代建築が並ぶ

イタリアは気候・風土・文化の他に生活習慣・言葉・食が地方によって大きく異なります。中でも私は食の違いに興味を持ちました。

ミラノは酪農や米作が盛んで、チーズや牛肉を使った濃厚な味わいの料理が中心です。ミラノ風カツレツはバターだけを油で揚げた牛カツレツで、軽い食感と溢れる肉汁が絶品でした。また、ベネチアは海の幸が豊富なので海鮮料理が中心です。ほかの甘味で真つ黒なイカ墨を使ったイカ墨パスタはとてもしばりしていただきました。イタリアはパスタの本場といわれるほどで、料理に使う小麦粉は全て国産です。そんな独自の文化を持つイタリア料理を実際に体験できるとも貴重な経験ができました。



こぼれりソースを使ったイタリア風パスタ

福祉と情報の見学研修

福祉情報専攻二年 石川 唯

私たちは東京、横浜で福祉と情報関連の施設を見学しました。横浜の新聞博物館では明治時代から現代に至るまでの新聞やその時代の報道写真を見て、歴史を身近に感じることができました。

また、東京新宿区の障害者グループホームや福祉センターへの訪問では、どんなに重い障害をもつ方でも自分らしく自立して生活することができると先端的なサポートの実際を知ることができました。さらに品川区のバリアフリー住宅では、最新の設備について学びました。

いつもとは違った角度から見た福祉と情報の現場は、どれも私にとってたいへん新鮮で、またひとつ大きな収穫となりました。

琉球建築の彩色美に感動

生活芸術科二年 長谷川 裕美

二泊三日の沖縄研修でしたが、沖縄には独特の歴史や文化が存在し、その歴史や文化を実際に肌で感じる事ができました。

私は首里城の琉球建築の眩しいほどの彩色美にとても感動しました。また、首里城の「朱」と空の「青」とのコントラストの美しさは、とても印象に残っています。美ら海水族館では、沖縄の海の雄大な中にある神秘さや、「やちむんの里」の焼物の素材で温かみのある質感など、全て沖縄でしか味わうことができない、とても貴重なものでした。

研修旅行を通して、また新しい知識や価値観、感性を磨くことができました。それを今後の創作活動に生かしていきたいと思います。

音楽の故郷を巡る

音楽科二年 成田 優

三月二十日から七日間、音楽の故郷オーストリアのザルツブルグとウィーンを巡って参りました。モーツァルト生誕の地であるザルツブルグは、小さな街でしたが街全体が世界遺産に登録されているだけあって、石畳に石造りの建物と、まるでおもちゃのようにかわいい素敵な街でした。

音楽の都ウィーンには、街の至る所に音楽家ゆかりの地がたくさんあり、また毎晩演奏会が盛んに行われていて、私たちも演奏会とオペラを鑑賞しました。今回の研修旅行は日本ではなかなかできない貴重な体験で、両方に感謝しつつ、今後の音楽の勉強に役立てていきたいと思っています。

中国の世界遺産

文化学科二年 渡部 綾乃

五泊六日の中国研修旅行は、非常に楽しく、また勉強にもなり充実したものになりました。広大な土地や奥深い歴史、日本との文化の違いなど、見て聞いて感じて学んでいくことができたことは、私たちの世界観や視野を広げるために良い経験になりました。

中国に現存する様々な世界遺産は中国の素晴らしい文化や技術を表すと同時に、人類の持つ大きな力を私に感じさせました。万里の長城や兵馬俑などの巨大建造物を現代のような科学技術を持った人々がどのように生み出したのかと思うと、大きな感動を覚えました。見学した建造物は中国の歴史を現代に伝える貴重な文化財でした。これからも世界遺産として永遠に大切にしたいと思います。

杜のなかで

ライフスタイルの転換

二〇〇七年、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が、温暖化は人為起源の温室効果ガスの増加によること、そして地球の気温は二十一世紀までに一・八〜四度上昇し、温暖化の影響は地球全域に及び気温上昇に応じて重大化することを詳細に示した。

これに対して、最近、わが国の一部の科学者から、温暖化の原因は自然変動であり、二十一世紀のさらなる温暖化には同意しない、という懐疑論が提起されている。

しかし、人間活動による温室効果ガスの増大が温暖化を引き起こす、という構図は各国政府の支持を得、温暖化を抑えることが世界的課題となっていることは周知のとおりである。そこで、その方策の一つとしてライフスタイルの問題を考慮することにした。

温暖化を左右する要因
人口とライフスタイル

一般論として、人間社会が環境に与える影響の大きさは、地球上の人口と人々のライフスタイルによって決まるといわれる。現在の世界人口は約七十億人に近く、二〇五〇年には九十億人に達すると見込まれている。もし世界中の人々が消費を目標とするアメリカ人のライフスタイルの暮らしをすれば、二酸化炭素排出量は二〇五〇年頃までに現在の約五倍、全世界で千二百五十億トンに達するだろうといわれる。環境がそれに耐えることは困難であろう。

ちなみに、世界の二酸化炭素の排出量は二〇〇五年、先進国と途上国で五〇%ずつであるが、国民一人当たり排出量(トン)では二〇〇四年、米国(二九・八)、ロシア(二〇・八)、日本(二〇・〇)、イギリス(九・二)、フランス(六・二)、中国(三・七)、インド(一・〇)の順である。

この数字から言えることは、大量消費をライフスタイルとする先進国が新興国と比べて温暖化に対して圧倒的比重大さをもつということである。

質素で持続可能なライフスタイルは可能か

財貨の消費を目的とするライフスタイルから質素で持続可能なライフスタイルへ転換できるか、が鍵となる。こうした試みは、新たな潮流として世界各地で取り組まれているが、それはまだ少数派にとどまっている。その理由は、西欧的消費主義のグローバル化とともに、先進国の経済が消費の拡大に構造的に依存し、こうした経済システムの中に人々が固く組み込まれているからであるといわれる。

しかし、変化が求められていることは事実である。そのためには政治のリーダーシップなど様々な条件が必要であるが、根本的には消費は人間福祉の単なる手段にすぎず、目的は最小限の消費によって最大の福祉を得ることである、という質素で持続可能なライフスタイルを、日常生活において実行できるほど深く理解することではないかと考える。

参考文献: ワールドウォッチ研究所「地球白書二〇〇八―〇九」

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム

自然を感じて

熊田 伸子

学園の桜が咲いても、裏磐梯にはまだ雪が残る。冬と春が同居するスキー場は、木々や土の見える土手にうす緑色が見え、リスが木から下りて餌を探す。ジャケツトを脱ぎ、シャツ一枚で春を感じながら滑るのは気持ちいい。

冬の問答をもて余す我が子のため、十数年振りにゲレンデに立つようになった。それほど上手でも好きでもなかったのが気が進むものではなく、リフトには乗らず、専らソリ遊びを楽しんだが、子供のソリ卒業に仕方なく板を履いた。ところが、リフトに乗ると二十代の頃とは違い、雪山に目を奪われた。空や山、木々の様子、小動物の足跡にまで。加齢とともに自然を愛でるようになったのか、自然を肌で感じる心地よさを知り、一



人でもスキーを単に楽しんで出かけたことに自分でも驚いている。

肝心のスキーは、人間の技術が進歩しなくても、道具の進歩が未熟さを補ってくれる。華麗に……とはいかないが、気持ちよく斜面を滑降できるのは、自分の技術ではない。

スキーは、いくつになっても上達できるスポーツだと聞いた。なるほど、今のスキーなら楽しめる。ただ、体だけでなく、自然を感じることでもリフレッシュできる。好きなことを楽しみ、心も体も健康に。私はこれで華麗なる加齢をめざそう。

(大学・人間生活学科講師)



子どもたちと楽しんで

出会い

吉田 志保

私は一年前に本学短期大学部幼児教育学科に入学した。この一年は、私にとって出会いの年だった。

最初の出会いは、一年間ともに

励まし合い、様々な面で成長し合

った。学園の仲間との出会いであ

る。夢に向かって互いに刺激し

合い支え合ってきたことは、これ

からの宝物になるだろう。私のク

ラスは、団結すべき時には声をか

け合い全力で事に臨む。仲間と触

れ合うことで一緒にいる幸福感を

味わい、協力の素晴らしさを学ん

だ。これは、仲間一人ひとりが素

直で純粋な心を持っていたからこ

そである。

次に、先生方との出会いである。

個性豊かで表現力が素晴らしい先生方。御講義も工夫されていて、先生方から知識だけに偏らず身体全体で語ることで相手に本当に伝わることを学んだ。

さらに、初めての実習での先生方と子供たちとの出会いが強く心に残っている。現在、少子化が進み子供たちと触れ合う機会がなかなかない私にとっては、子供たちとの関わりは貴重な経験となった。そして現場での先生方からの厳しい言葉や優しい言葉は、これからの私にとって励みとなり、自分自身を高めていく糧となった。

これからも出会いを大切に、感謝を忘れずに生活していきたい。

(短大・幼児教育学科二年)



吉田 志保

一筆一筆に思いを込めて

鈴木 千遙

今回、第二十回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演ポスターに応募し、最優秀賞をいただくことができました。

今回の作品は、冬休み中の制作

であったため、全て自宅での制作

となりました。しかし、制作が進

むにつれ、今まで描いたことのない

イラストの大きさに戸惑い「本

当にこの構成や色彩でよいのだら

うか、確切りに間に合うのか」と

不安になってきました。そんな私

を支えてくれたのは家族でした。

構成や色彩について様々なアドバ

イスや協力をしてくれたことで、「よ

し頑張ろう。描くからには良い作

品にしよう」と強く思うようにな

ったのです。今までに習ったことを思い出しながら、一筆一筆丁寧に思いを込めて描き、提出できた時には、今までにない達成感で一杯になりました。

入学当時の「高校三年間のうち、必ず賞をとる」という目標の中で、このような賞をいただくことができたのは、美術について一から教えてくださった先生方、日頃温かく見守り励ましてくれる家族、同じ目標に向かって努力する友人がいたからこそであり、私の周りの全ての人に心から感謝しています。ありがとうございます。

(附属高校美術科三年)



美術に没頭する

私の本棚

ピーター・メンツェル、
フェイス・ダルージョ著

『地球の食卓
世界24か国の
家族のごはん』

TOTO出版

都山女子大学食物栄養学科

講師 安田 純子

数年前、とてもユニークでオリジナ
ルな一世に出会った。それは、世界各

食品の勉強といえは、料理が好き
な方には興味を持ちやすいかと思
いますが、どうも料理とは別にしても
興味深いのが、ダイエツト食品の世界
です。

「病は気から」と申しますが、その
逆もまた真で、信じて飲めば、薬効
のまったくない偽薬もいくばくかの
効果を発揮します。

これは医薬品の臨
床試験においては実
証済みで、偽薬を
使った対照試験が
義務付けられている
くらいです。つまり、
ダイエツト食品にし
ても、まずは口上書
きがあつてこそ、こ
利益にあやかる気
にもなるというもの。その各ダイエ
ツト食品の口上書が、実に勉強になり
ます。

例えば、テレビで有名になった「朝
バナナ」、口上の一つは、アミラーゼと
いう消化酵素を含むため、消化酵素
を分泌する膵臓の負担を軽減でき
るそうですが、「ロイゲンダイエツト」

地(24か国)の家族とその一家の一
週間分の食料を写真に収めたものだ
つた。この取材記録は単なる家族の
肖像ではなく、そこからは、異なる国
文化、社会水準の人々がどのように
暮らし、家族を養っているかを垣間
見ることが出来る。

「世界の人たちはどんなものを食
べているのだろう」という問いは、本
質的で興味深く、人間や暮らし
についての重要な問題提起に発展す
る可能性を持つだろう。

各家族が手に入れた食べ物にはそ
の国の伝統文化が反映されているが、
時代の変化も感じさせる。また、食

生活は、栄養摂取面だけでなく貧困、
紛争、グローバル化など個々
を越えた事柄に左右されていること
が見て取れる。

そこに写し出されているものは、
ある国のある場所のある時点の家族
の一サンプルではあるが、食材として
調理法や家族の食卓を想像させる
だけではなく、食物と栄養状態、公
衆衛生、加工、食品のマーケティング
まで様々な疑問を提起し、我々全て
に関連しているように思われる。

しかし、あまり深刻に考えずにベ
ージを捲っていくと、ポルタージェと
して豊かで美しく楽しい一冊である。

は、そのアミラーゼを阻害する物質
を含むことを理由としています。「サ
ラシア」というお茶もまた、αグルコ
シダーゼという消化酵素の阻害物質
を理由にしていますし、「スレネデス
タ」というジャガイモ抽出物質はタン
パク質分解酵素の阻害物質ですが、
満腹感を得る過程で膵臓に負担を
かけるため、「朝バナ
ナ」とは逆の状態を
誘導します。

それでは何が正
しいのかと言えは、
ほとんど全てのダイ
エツト法で共通する
事柄は決まっています。
規則正しい三度の
食事、野菜が多めで
カロリーが多すぎず

生活診断室
シリーズ②
いけいけダイエツト食品
都山女子大学食物栄養学科
講師 関口 晋

大学

廖麗 理沙 助學(學務助理)
群山女子大學家政學部人間生活學科卒業。短期大學部家政科福祉情報専攻副學士(早

大島 福美 教諭
岡山女子大学短期大学部保育
科卒業、岡山女子大学附属幼稚
園主任、岡山女子大学短期大学部

大學／並井邦男講師、若賀清光講師▲高校／倉持大廣講師、後藤八重子講師、船石敏子講師

（四月一日）

人事

高校／副校長・柴早苗（主事）、主事・鈴木孝子（教諭）、八幡文朗（教諭）

（四月一日）

1

全国高校総合文化祭東京公演
ボスター公募で本校鈴木千通
さんの作品が最優秀賞

忘原し

二年生の生徒も加わつて全員で合唱を演奏した。「生きる」を演奏のテーマに一年間を過ごした卒業生こみ上げてくる別れを惜しむ思いが会場に伝わった。

5034

訃報
三浦 洋一氏
元短期大学部音楽科非常勤講師。
一月二十二日死去。七十五歳。
ご冥福をお祈り申し上げます。

二十五回目の「劇とあそびのふし」

歌と踊りで学習成果発表 ―短大・幼児教育学科―

企画、演出、美術、音響の総てを学生の手作りで催す短大・幼児教育学科(旧保育科)の「劇とあそびのふし」が本年二十五回目を迎えた。音楽、器楽、体育、造形等の保育演習を重ね、表現と想像の保育指導を学習した学生が成果を発表する学科最大の行事。

二月七日、会場の建学記念講堂



フィナーレ 出演者全員が笑顔

には、一年生の歓迎ハンドベル演奏に迎えられた市内外からの千名を超える幼稚園児や保護者が詰め掛けた。舞台では卒業を控えた二年生を中心にリズム劇「おどきな愛」、リズムダンス「虹の向こうへ」、オペレッタ「どろぼうとティファニー」が演じられた。一方、ギャラリイではあそびコーナーが設けられ、紙芝居、輪投げ、ダーツ、手作りおもちゃなどに興ずる子どもたちで賑わった。

保育者を目指す学生は実践した劇と踊りと遊びが子どもたちにどのように受けとめられたか、小さな体をゆすったり、笑ったりして喜ぶ姿に手応えを感じていたようだ。



心を一つにしたパフォーマンス

全国大会へ揃い踏み ―高校・部活動の努力実る―

マーチングバンド部優秀賞

マーチング&バトンコンテスト東北大会で金賞を受賞したマーチングバンド部は、二月二十一日から横浜市の神奈川県民ホールで開催された全国大会へ臨んだ。

「心をひとつに」を合言葉に、附属高校らしさを追求しながら、毎日練習に取り組んでいた部員たち。今回初めて挑戦したステージマーチング。卒業を控えた三年生には最後の演技となり、励んだ成果を堂々と発揮した。そして優秀賞、喜びの表彰で夢はさらに膨らみ来



演奏、演技の最大の見せ場

年はより上位をと誓い合った部員たちであった。

バレーボール部
春高バレーで白熱の戦い

熱戦のつづいた見事な活躍

春の高校バレー全国大会への出場を目標に、厳しい練習を重ねた結果、県大会で優勝し全国大会への切符を手にしたバレーボール部。

三月二十一日、四年ぶり八回目の東京代々木第一体育館。初戦の相手は山口県代表の誠英高校。県大会で勝ち抜いた自信と誇りが、粘り強く白熱のラリーを展開した。試合は惜しくも敗れたが、自分たちの全てを出し切ったことに悔いはなく、八月の近畿インターハイに向け、また新たな気持ちで練習に励んでいる。



全員バレーを実践した部員たち

音楽アンサンブルコンテスト
第二回全国大会で金賞 ―音楽部―

本県主催の「音楽アンサンブルコンテスト第二回全国大会」に応募した音楽部のA、B二つのグループがテープ審査を通過、揃って全国大会へと進んだ。昨年に引き続き続いている出場である。三月二十日からの福島音楽堂での本大会では



部員全員が大きな感動を宝物にすることができた

パイプオルガンとの共演で荘厳な響きに響かせてミサ曲を演奏した。

美しく透明なハーモニイは見事に会場に調和し、指揮をした顧問の松崎洋子教諭をして完璧な演奏と言わしめた。審査の結果、Aグループは銀賞、Bグループは銅賞と上位入賞を果たした。

八射六中で全国大会へ
弓道部 榎林聖子さん

県高等学校新人体育大会弓道競技女子個人戦で優勝。東北大会で八射六中の見事な成績を収めた弓道部の榎林聖子さん(三年)は三月二十一日から静岡県武道館で行われた第二十七回全国高等学校弓道選手権大会に出場した。

四射管中で手選を突破、三十三名による決勝では二本目まで進出した。上位入賞は惜しくも逃したものの、堂々とした戦いぶりであった。



弓道が楽しめるといふ榎林さんの笑顔

先輩の温かい歓迎を受ける
新入生

故郷を離れ、家庭寮での生活をスタートさせた六十九名(大学生三十一名・短大生三十三名・高校生五名)の歓迎会が、四月二十一日芸術館大教室で開催された。在寮生の趣向を凝らした余興や心のこもったメッセージに笑顔がこぼれ、新生活や友人との出会いに期待を膨らませながら楽しいひと時を過ごした。



在寮生による余興

本学所蔵 紙上美術展 58

第五十四回 卒業記念屏風絵 ―附属幼稚園―

この春、幼稚園を巣立った六十名の園児が残した卒業記念屏風絵。一緒に遊んだお友達のこと、お出かけた時の風景、印象等々、三年間の思い出がいっぱい詰まった作品。



「やなぎくみのおもいで」やなぎ組



「ふぞく幼稚園のおもいで」まつ組



「もみじランド」もみじ組

木もれ陽

桜の花の満開の丁度その時に新鮮さを満面に運んで学園の門を潜って来た新入生の皆さんは、まだ落着かない日々を過ごしているであろうか。

道元禅師の生涯を描いた「禅ZEN」という映画がある。原作は太谷哲夫著「永平の風」である。一〇〇〇年代の優れたその禅僧の生涯は師弟愛に満ちている。若い道元は真の師を求めて中国へ命を賭して渡り、そこで生涯の師と出会う。帰国後、今度はその道元を慕って日本中のあちこち中国からも若い僧たちが集う。誰よりも厳しい修行に立ち向かう道元の傍らには常に弟子たちが寄り添う。

物語のラストシーンはこうである。道元の弟子の尼僧が、粗末な小さい禅堂で幼い子たちに座禅の指導をしている。外は激しい雨。その雨は中の子供たちへも吹き付けるほどだ。ある童女が座禅の一つのしきたりである両手の組合せを外し片方の手を上に挙げ、丁度円のような形にしていた。尼僧は両手の形はこうです、と優しく教える。それに対して、そのあどけない童女の応えはこうであった。

仏様がぬれないように屋根をつくっているの。

人の世で最も大切な物を思いやる優しい気持ち、仏教の教えの真髄ともいうべきものをこの幼子は理解し実践していたのである。既に師を越え師の恩に報いている。既存の中の普遍性のまたその内にある真実が殻を破って外へ出てきた。新しい普遍性を有して。

「時雨同時」という言葉がある。「時」とは鶏の卵がかえる時、殻の中で雛がつく音、「啄」とは母鶏が殻を外から噛み破ること。雛鶏が誕生する時、母がその手助けをする。

学園とはそのような場所である。(均)